

2017年度（平成29年度）事業報告

特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会

《概要》

2017年の世界は、トランプ米大統領の就任、習中国国家主席体制の強化、北朝鮮のミサイルと核実験等々、また国内でも森友問題などで揺れています。一方、平昌五輪のメダル13個、パラリンピック10個の獲得、米朝会議への進展など明るいニュースもあります。

当協会は、長年苦しんできた財政面での赤字体質も改善の兆しが見えてきましたが、まだ課題は残ります。それはボランティアの高齢化や事務部門の強化などです。高齢化については講座でいかにPRし活動人員を獲得するか、事務部門は法人維持のための庶務やHC調整業務をどう安定させていくか、講座や傾聴の調整は委員会に委ねているのでその点をどうするかという問題が残ります。

事業の面では、ボランティア養成講座、ぼらんていあ通信やホームページなどの情報発信、ほかほかふれあいフェスタやボウリング大会などの他団体との交流事業、「協会らしい」事業として居宅訪問型の傾聴、住まい探し、就労支援などの活動も進めてきました。

また、2017年度から委員会組織を改編しました。改定点は、先ず理事会の諮問機関として総合企画委員会を独立させ、従来の広報委員会（ぼら通）、情報戦略委員会（ホームページ、わくわく）を解消し、広報委員会ぼら通部会（ぼら通）、広報委員会情報部会（ホームページ）、広報委員会わくわく部会（わくわく）に再編しました。傾聴活動が順調に育ってきたこともあり新たに傾聴委員会を設けました。そして各委員会も理事会の補助組織としてどう活性化させていくかを検討してきました。

《特定非営利活動にかかわる事業報告》

1. ボランティア活動の総括

ボランティア団体、市社会福祉協議会、行政との協働のもと、移送援助活動や日常生活支援などを通して障がい者、高齢者の社会参加を拡大していく事を目指しました。さらに一般市民の社会貢献活動へのお誘いのためのボランティア養成講座を開催、市民のための情報活動として月刊と季刊の広報誌を発行し、またホームページをリニューアルしました。そして事業運営円滑化のための事務局の増強、財源確保の為の活動を行いました。

《ボランティア動員数》

	利用者数 (年間延人数・回数)	ボランティア (年間延人数)		備 考
		協会員	その他	
ハンディキャブ事業活動	1,650 名	1,267 名		運転及び介助ボランティア
交流事業				
・桜まつり	－	69 名	11 名	連協他と協業、10 月 1,400 名、 12 月 2,000 名
・ほかほかふれあいフェスタ 2017	3,400 名	42 名	17 名	
・新春ボウリング大会	60 名	18 名	4 名	
傾聴ボランティア	148 回	310 名	－	対象者 14 名、活動者 27 名、 委員会・交流会含まず。
ボランティア養成講座・入門講座	63 名	83 名	44 名	講座 80 名及び委員会 47 名
広報活動		195 名	48 名	月刊、季刊誌、ホームページ
事務局		692 名	－	庶務 358 人・HC 調整業務 334 人（月～土）

2. 高齢者、障がい者への援助活動

(1) ハンディキャブ運行事業

単独で外出困難な人々の支援を行うために2台の福祉車両とセダン型車を活用して「安心と安全を運ぶ」をモットーに延べ1,148回に及ぶ運行を行いました。2017年度は迎車回送料金を頂くことにより協会の収支に貢献しました。これからの課題は運転手高齢化の問題です。新しいボランティアの獲得について、ボランティア養成講座等で次代を担う人材獲得に努めました。その他小中学校の「みんないい人体験講座」にも参加しています。

《2017年度の運行実績》

運行種類	内 容	件 数	利用者数	運転ボラ	介助ボラ
一般運行 (内セダン型運行)	通院・外出 ・買い物等	1,148 件 (436)	1,650 名 (608)	1,148 名 (436)	119 名 (2)
学校協力事業	体験学習など	5 件			

(2) ボランティア団体とのネットワークづくりと交流事業の開催

ボランティア団体とのネットワークづくりについては、ぼらんていあ通信に市内22か所の地区社会福祉協議会が活動している“地域福祉にある福祉課題を発見し、みんなで共有し、解決していく「福祉コミュニティ形成事業」”を市社会福祉協議会のご協力で掲載し、さらに障がい児者団体等と連携する事により、ほかほかふれあいフェスタなどを開催しました。

(イ) ほかほかふれあいフェスタの開催

障がい者や市民との交流を目的とする「ほかほかふれあいフェスタ2017」を相模原市、相模原市教育委員会、相模原市社会福祉協議会、相模原市社会福祉事業団の後援を得て、2017年10月14日(土) あじさい会館とウェルネス相模原前広場で開催し、約1,400人の参加がありました。

さらに12月9日(土)には障害者週間にちなんで、サンデッキ相模大野で障がい者の福祉に関する市民の関心と理解を得るためのキャンペーンを実施し、約2,000人へ啓発ビラを配布しました。

(ロ) 障がい児者とのボウリング大会

障がい児者との新春ボウリング大会を相模原パークレーンズの協力を得て2018年2月17日(土)に開催しました。参加者は14団体60名(選手55名)、ボランティア、協力団体を合わせると総数82名の参加となりました。(実行委員会は3回開催しました)

(3) 傾聴活動

当協会は、2014年から居宅訪問型の傾聴ボランティア活動を開始しました。当協会の基本ルールは月1回1時間程度、居宅を2人で訪問しお話し相手をしています。介護保険ではヘルパーは会話の余地がなく、その部分を傾聴ボランティアがカバーするという趣旨です。利用者の紹介は市社協ボランティアセンターやケアマネージャーの紹介に頼っています。利用者は殆ど外にも出ずに引き籠っていますが、傾聴活動を受けることで見違えるほど元気になり介護度の改善も見られます。

2015年は61回、2016年は75回の傾聴活動を実施し、2017年度の利用者は14名、訪問は148回、活動者は延べ310名となりました。さらに、活動者の交流と研修の場として2回情報交換会を開催しました。

(4) 就労困難な方への社会参加の機会づくり

厚生労働省事業で、相模原市がNPO法人文化学習協同ネットワークに委託している事業(若者の職業的自立に向けた支援)に対する援助として、若者サポートステーションを利用している若者数名が来所し、「ぼらんていあ通信」の発送業務などを協会員と一緒にこなしています。気軽に会話を交わすことにより、職場での対人関係の育成訓練に寄与することを目指しています。2017年度の「ぼらんていあ通信」発送業務への参加は2017年4月25日～2018年3月20日迄で計11回48人の若者が参加しました。

(5) 家具転倒防止のための援助活動

高齢者や障がい者を対象に家具転倒防止を相模原災害ボランティアネットワークと協働実施していますが、2017年度中の依頼はありませんでした。

この活動は市危機管理課が作成しているチラシにボランティア協会の活動として紹介されています。

(6) 住まい探しのための援助活動

相模原市の高齢者等住まい探しの相談事業の窓口である公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会(まち協)からの要請による「住まい探しサポーター」としての活動も5年を迎えました。今年度、相談会は計画6回のうち5回実施され、延べ10名を派遣しました。また、相模原市とまち協の相談会等事業の連絡会議にも2名参加しました。

3. ボランティア養成に関する活動

ボランティア活動を始める人を対象に、2017年7月に基礎講座、コース別講座を開催しました。さらに2018年2月(入門講座)には傾聴活動、HC活動する人を対象に傾聴入門講座を開催し、人材育成に取り組みました。

《受講者数》

基礎講座	コース別講座（内訳下表）	傾聴入門講座（春講座）
37名	17名	26名

《コース別講座内訳》

外出援助	高齢者支援	音声訳	点訳	拡大写本
3名	3名	5名	3名	3名

4. 情報発信にかかわる事業

当協会の発行する「ぼらんていあ通信」は、1981年以来、毎月発行し2018年3月で通巻436号となりました。総会、ボランティア講座、ほかほかふれあいフェスタ等のイベントの記事やボランティア団体の訪問記事、クイズ等に加え、市社協ボランティアセントラートピックス、市内で活躍する会社も掲載しました。市内で活躍する会社は相模原市青年会議所に所属する会社を中心に取材し、協賛の寄付も頂きました。また、会員以外にも市内のボランティア団体、公民館や学校などにも配布して情報提供を図りました。

季刊のボランティア情報誌「わくわく」は、38号、39号、40号と発行しましたが、40号を機に紙面をA5版からB5版として見やすく、さらに福祉に関する情報提供も積極的に盛り込むこととしました。

協会のホームページは、見やすくするために刷新しました。この中にはぼらんていあ通信やわくわくの電子版も掲載しています。閲覧者も5,850人（3月末）と増加しています。

5. 外部会議等への参加

当協会は、相模原市の社会福祉審議会、精神保健審議会、地域福祉推進委員会、福祉のまちづくり推進協議会、市社会福祉協議会の地域福祉活動計画等推進委員会の委員を委嘱され派遣しています。さらに社会福祉事業団の監事にも委嘱されています。

その他相模原市主催の桜まつりでは、HC車のパレードへの参加、福祉バザーの実施、市社協ふくし・ふれあいブースでの模擬店にも参加しています。

また、相模原災害ボランティアネットワーク（SSV）の運営委員として、SSVの運営に係わっています。

6. その他の事業

（1）法人運営、HC調整のための活動

法人運営と日常の連絡調整を行うための事務局についてはあじさい連絡所で運営しています。事務局員や事務局サポーターの大きな協力のもと推進してきましたが、人により負担の偏りもあり一層の強化が必要です。

また、市社会福祉協議会の中央ボランティアセンターとの連携を取りながら円滑な運営に努めています。

（2）財源確保のための活動

認定NPO法人制度を利用した会員に対する寄付促進のキャンペーンを行いました。また、イオングループの「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加、「ぼらんていあ通信」や「わくわく」への会社紹介記事の掲載等、財源確保の活動を行いました。また、「桜まつり」でバザーの実施、市社協ふくし・ふれあいブースでの模擬店、ほかほかふれあいフェスタの喫茶などでもご寄付を頂きました。使用済テレカや切手などの収集活動も継続して行っています。

(3) 新規正会員勧誘の活動

ボランティア養成講座や入門講座の最終日に協会やハンディキャブの説明および申込み窓口を開設し新規会員の獲得を推進しました。またその他にも南地区で社協の講習会に参加しハンディキャブ運転ボランティアの増加策も実施しました。

《正会員数推移》

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
正会員数	130名	119名	108名	115名	121名	118名
当年度入会者数		4名	6名	20名	23名	12名
前年度退会者数		15名	17名	13名	17名	15名